

2020年度新人看護師が「1年間を通じて心に残った看護の語り」を、発表しました。その一部抜粋です。

A氏の関りから

A氏の辛そうな様子を見て、早く聞いてあげなければ、という思いがあり、どんどん質問をしていた。そんな時、他の職員の関わりをみた。身体をさすったりしていた。質問するのではなく、まず、A氏が落ち着けるような関わり行っていることに気づいた。



看護の語り

心に残った看護



1年を経て、学んだこと・・・

Hさんの関りから

Hさんとお話をしていると隣のYさんからケアの依頼がありHさんに「少し離れますね。」と言って離れた。ケアが終了すると、「いつ来るの、待ってたけどこなかった」と話されました。「しんどい思いをさせてごめんなさい。」という、瞬きで返事がありました。



看護師1年目が無事に終わりましたね。お疲れさまでした(^)ドキドキの毎日の中、利用者さんとのコミュニケーションを通して学びがあったことを嬉しく思います。この学びを重症児者看護の種として育てていけるよう、広い視点で考え、利用者さんの健康と生活を支えていきましょうね！

教育担当より



「少し」や「ちょっと」は、利用者さんには、想像しづらい表現です。びわこ学園では、自分の思いを言葉で伝えることが難しい方が多いです。伝えることが難しいだけで、いろんなことを思っている。お互いが共通して認識できる表現を見つけて行こう。